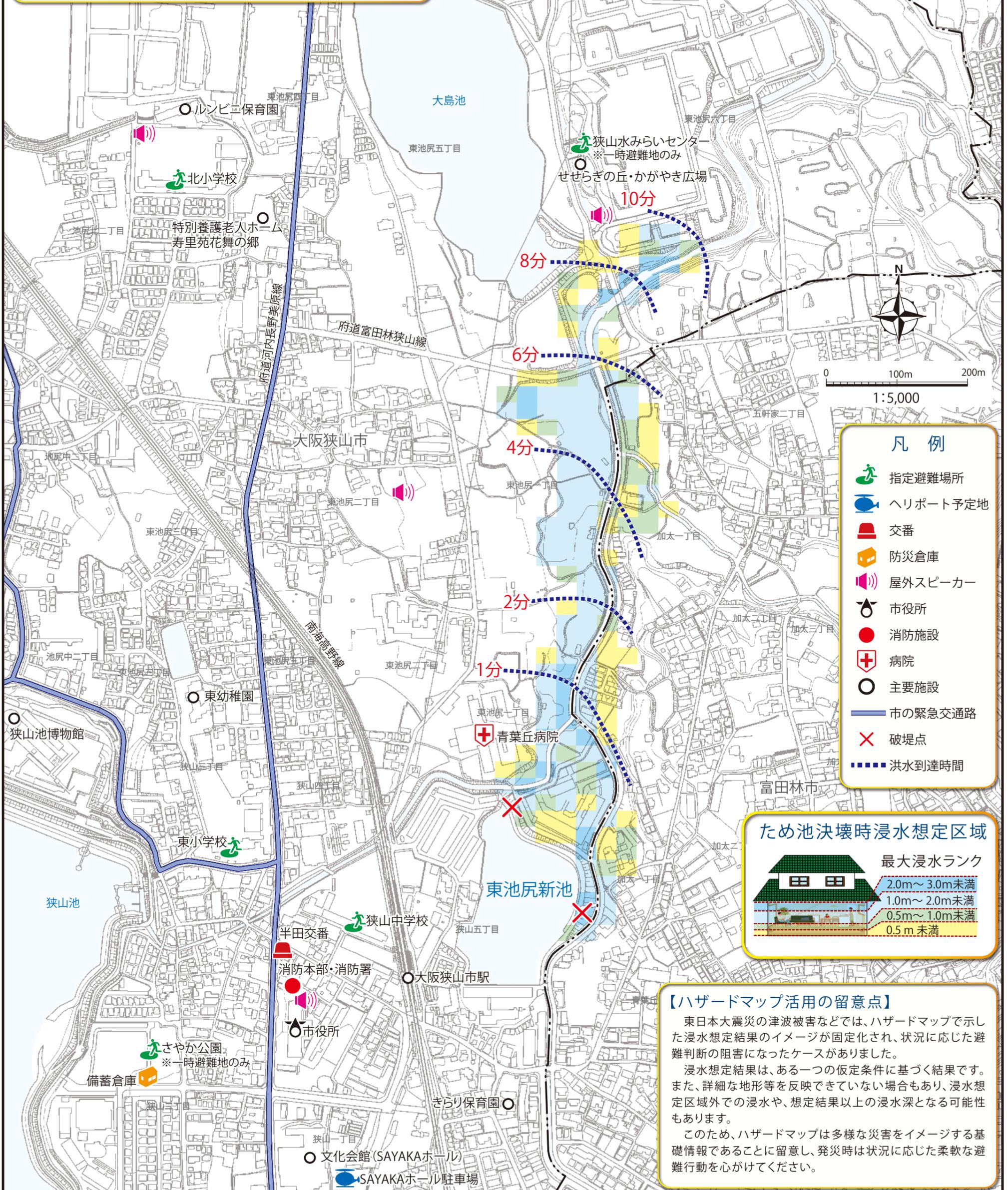


5 ため池浸水想定区域図(東池尻新池)

ため池ハザードマップの作成条件

● ため池ハザードマップは、万が一への備えとして「最大規模の浸水想定区域」を示しています。浸水想定区域は、以下の条件に基づく「はん濫シミュレーション」により求めています。

- ① ため池が満水状態のときに、大雨や大地震等によって堤防が決壊し、全貯水量が流れ出すと仮定しています。
- ② 決壊を仮定した場所は、堤防が高い場所としました。
- ③ 決壊によって流出する水は、地形を25mの格子で表した数値モデルを用いて、その動きや場所ごとの水深等を計算により求めました。



凡例

- 指定避難場所
- ヘリポート予定地
- 交番
- 防災倉庫
- 屋外スピーカー
- 市役所
- 消防施設
- 病院
- 主要施設
- 市の緊急交通路
- 破堤点
- 洪水到達時間

ため池決壊時浸水想定区域

最大浸水ランク

- 2.0m～3.0m未満
- 1.0m～2.0m未満
- 0.5m～1.0m未満
- 0.5m未満

【ハザードマップ活用の留意点】

東日本大震災の津波被害などでは、ハザードマップで示した浸水想定結果のイメージが固定化され、状況に応じた避難判断の阻害になったケースがありました。

浸水想定結果は、ある一つの仮定条件に基づく結果です。また、詳細な地形等を反映できていない場合もあり、浸水想定区域外での浸水や、想定結果以上の浸水深となる可能性もあります。

このため、ハザードマップは多様な災害をイメージする基礎情報であることに留意し、発災時は状況に応じた柔軟な避難行動を心がけてください。